

評価委員会総合評価

研究課題名：南海トラフ地震の地震像とスロースリップの即時把握に関する研究
評価委員

委員長：小泉 尚嗣

委員：岩崎 俊樹、関口 渉次、西村 太志、馬場 俊孝、保坂 直紀

評価年月日：令和5年11月10日

1. 総合評価

- (1) 継続の可否 継続 中止
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

本研究は、南海トラフ地震での「半割れケース」「一部割れケース」「ゆっくりすべり（スロースリップ）ケース」の3通りのケースに対応し、地震像を即時把握することで、南海トラフ地震臨時情報の確実な早期発表と、情報発表につながるスロースリップの監視強化に寄与することを目的としており、機械学習やDASなどの新技術も活用しながら多くの研究成果を上げている。これらは、「全割れ・半割れ・一部割れ」の早期で正確な把握につながり、次の余震の規模・時期予測の高精度化にもつながる。

以上の観点から、本研究は、南海トラフ地震の震災軽減に役立つ研究であり、社会的意義は大きい。

今後に向けて、以下の指摘事項を踏まえて、取り組んで欲しい。

- ・ それぞれの成果については着実に研究が進んでいることはわかるが、目標を達した場合にどのように目的が達成させられるのかがよくわからない。それらの目標と目的の関係をできるだけ明確にして進める事。
- ・ 業務実装に向けては精度検証が必要である事。
- ・ 将来的には、大地震による機器の故障、停電によるデータの欠落が発生した場合でも、ある程度の活動把握ができるシステムの検討が重要な事。
- ・ 研究成果を一般によく理解してもらえるように、防災事業に反映させる方法（アウトリーチ）について、簡単な説明があるべき事。
- ・ 南海トラフ地震の発生確率については、研究者の間でも議論がある。したがって、研究者の姿勢や研究成果を社会に対して透明にしておく努力がより重要となる事。